

審 議 経 過〔要点記録〕

（1）会長・副会長の選出

伊万里市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会設置要綱第3条に基づき、互選により、会長に戸田委員、会長の指名により副会長に中山委員を選出した。

（2）第2期伊万里市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

（資料1、資料2）

（3）第2期伊万里市まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプランについて

（資料1、資料3、資料4、資料5）

（2）と（3）について、一括して事務局より説明を行った。

〔松下氏（金子委員代理）〕

パブリックコメントの説明の中で、高校生のアルバイトについて、早い段階で社会に触れることで進路を考えるきっかけになるので禁止しない方がよいとの意見が紹介されたが、私も同意見である。このようなことは、この委員会で審議して決めるのか。

〔事務局〕

できることとできないことがあると思うが、この委員会では意見交換の場としてさまざまな意見を出していただいて、内容によって関係団体に伝えるなどしたい。

〔津川委員〕

高校では「進路実現」を第一に掲げ、そのための学習指導要領にのっとった特色あるカリキュラムを行っている。その中で、キャリア教育として希望する分野、また、学んでいる分野に近い企業へのインターンシップや、企業説明会へ出向くなど、自分

が将来何になりたいのか、どういう方向に進みたいのかという教育活動を行っている。アルバイトについては完全に禁止しているわけではなく、長期休業中は認めている。実体験という意味ではアルバイトも良いと思うが、あくまでも学業優先であり、生徒指導面で心配なところもある。この件は校長会でも共有して、いろいろな活動の中で実態教育を積んでいきたい。

[戸田会長]

広い意味でのキャリア教育の在り方は総合戦略全体でも大きなテーマの一つである。

[中川委員]

総合戦略の取組の推進にあたっては、若者のアイデアは重要だと思う。以前の会議では子どもの考える事業も盛り込みたいとのことだったが、どのような計画を考えているのか。

[事務局]

広報伊万里2月号で総合戦略の特集記事を掲載することとしているが、あわせてアクションプランも募集する。そこで子どもの意見も出していただきたいと考えている。簡単な取組、例えば「1日一つごみを拾う」などでもよいので、いろいろなものが出て、運動として盛り上げていければと考えている。

[戸田会長]

募集についてはどのようなものをどう提案すればよいかをうまく伝えられればと思う。行政のアクションプランはハードルが高く見えるので、そのあたりの工夫を検討いただきたい。

[谷口委員]

転入転出者アンケートについては、仕事を理由とした転出の割合が大きいことや、結婚が理由の転出が2割あることなどが分かり、戦略の目的である人口減少の抑制のための施策の検討にあたって大変参考になるデータである。今後のアクションプランでは転入の増加につながるものや、市外に対するシティプロモーションに関するものなどが充実すればと思う。

[事務局]

アンケートはH28に実施したもので、その後行っていなかったため推進委員会などで説明

していなかったが、重要なデータであることは分かっているので、年明けからアンケートを再開するように項目の整理を行っている、今後、最新のものをお示しできるように準備を進めたい。

シティプロモーションについては、キャッチコピーの決定手続きを進めており、年明けに発表するが、一つの方向に向かって市民みんなで行動に移すため、分かりやすい方向を示す言葉が必要であると思い設定している。市外にも積極的にPRしたい。

[戸田会長]

転入転出アンケートは、大変だろうが続けてもらいたい。

[村上委員]

アクションプランの公募に関連して、最大何個まで増やすのか。また、戦略の達成状況などのチェックはいつ行うのか。例えば、戦略の検証の中で、伊萬里まちなか一番館の取組に対する評価はDとなっているが、推進委員として議論する時間はあまりなかったように思うが、推進委員の立場はどうなっているのか。

[事務局]

アクションプランは、これまで市の事業を中心にあげてきた経緯があるが、今後は民間や市民に拡大していきたい。民間主導のものも本来であれば、市のアクションプランのように目標を設定して進捗を確認して、というのが良いのだろうが、そうするとハードルが高くなるので、それより、自分たちでどんなことができるのか考えていただく方向に軸を移して、たくさん募集したいという方向に変えた。推進委員には市のアクションプランは引き続きチェックしていただきたい。また、市民のものも推進委員会で紹介させていただき、確認いただきたい。

チェック機能の第1弾は部会であるので、部会の組織は引き続き継続したい。その結果を推進委員に報告し、最終的な評価をお願いするという流れはこれまでと変わらない。

[戸田会長]

これまで行っていたような部会でチェックするアクションプランと、公募によるアクションプランは別個に回っていくのか。

〔事務局〕

市が主体となったアクションプランはこれまで同様のチェックを行っていただきたい。公募したものについては、評価というより情報共有という形で紹介する形になると思う。整理できてない部分もあるので、今後考えていきたい。

〔青木委員〕

議会の一般質問でもあったが、伊万里市は正職員に占める女性管理職の割合が県内10市でも最低であるが、この割合を増やすことを推進していけば、子育てしやすいまちづくりも進めやすいと思う。市が取り組むべき事業として目標を掲げるとよいのではないかと。

〔事務局〕

男女協働の推進について、若い女性の市外転出が増える中で、女性が住みやすいまちづくりは重要な取組であると思う。重点施策でも男女協働推進事業をあげているが、啓発を続けることで、まちづくりの意思決定の場に女性に参画していただきたいということが目標である。市役所については、50代の女性の数自体が少ないということもあり、今後増えていくと思うので、推進をしていきたい。

〔東嶋部長〕

市全体で女性の参画を伸ばしていくという視点は大事なので、市内における「男女協働参画宣言事業所」の宣言数などは指標としてあげることは良いと思うが、一事業所としての市の管理職登用については、アクションプランに表記するのは今のところ適当ではないと思っている。

〔石本委員〕

キャッチコピーについて、選ばれるためには情報として知らせないといけないと思う。伊万里でもイルミネーション列車などさまざまなことをやっているが、市民も知らないことがたくさんある。神崎市はテレビで宣伝しているが、そのように、内外にPRすべきである。知らなければ選ばれない。どう知らせていくかが大きな課題であると思う。

〔事務局〕

シティプロモーションの取組の中でやっていかなければいけないと思っている。さまざまな人の協力を得ながら市全体で盛り上げていきたい。そのためにも、今回決めるキャッ

チョコピーはスローガンの的に掲げるものとしたい。

〔東嶋部長〕

シティプロモーションにもいろいろあるが、市で今年度力を入れているのは、伊万里の人に伊万里のことを知ってもらい、口伝えで発信する方法をまずやっている。来年度からは外向けに広げていきたい。今後も息長く取り組んでいきたい。

〔古賀委員〕

日本全体でみると人は少なくなっていくので、外国人労働者の活用も考えるべきではと思う。松浦町の伊万里東部工業団地ができ、企業誘致が進んでも、地元企業から人が抜かれては地元企業が困る。人も一緒に誘致をしていくことが大切である。

〔事務局〕

外国人材が貴重であるという実態は把握しており、第2期市総合戦略の新たな視点でも、「多様な人材の活躍を推進する」とあるように、外国人労働者の活用についても推進していくこととしている。

企業誘致活動についても、人材を市外から連れてこられるような活動を期待したい。地元に着着していただける企業を誘致できた際には、その企業にお願いしていきたい。